

③ バッティング後半の上体の回転

バッティング動作後半でのフォームを図5に示しました。それぞれ二つの画像が並んでいますが、左側がバットが体の後方（真後ろ）にある時の画像で、右側がインパクト時の画像です。両肩を結ぶラインに模式的に線を引きました。ここで両肩を結んだラインに着目すると、県代表校ではバットが後方に位置した時点で両肩を結んだラインが前を向いており、インパクト時の両肩のラインとそれほど差がありません。したがってバッティング動作後半で上体がさほど回転しておらず手打ちのようなフォームになっています。一方優勝校は、バットが後方に位置した時点では両肩のラインが前を向いておらず、インパクト時のラインと差があります。したがって優勝校はバッティング動作後半で一気に上体を回転させスイングをおこなっていると考えられます。

県 代 表

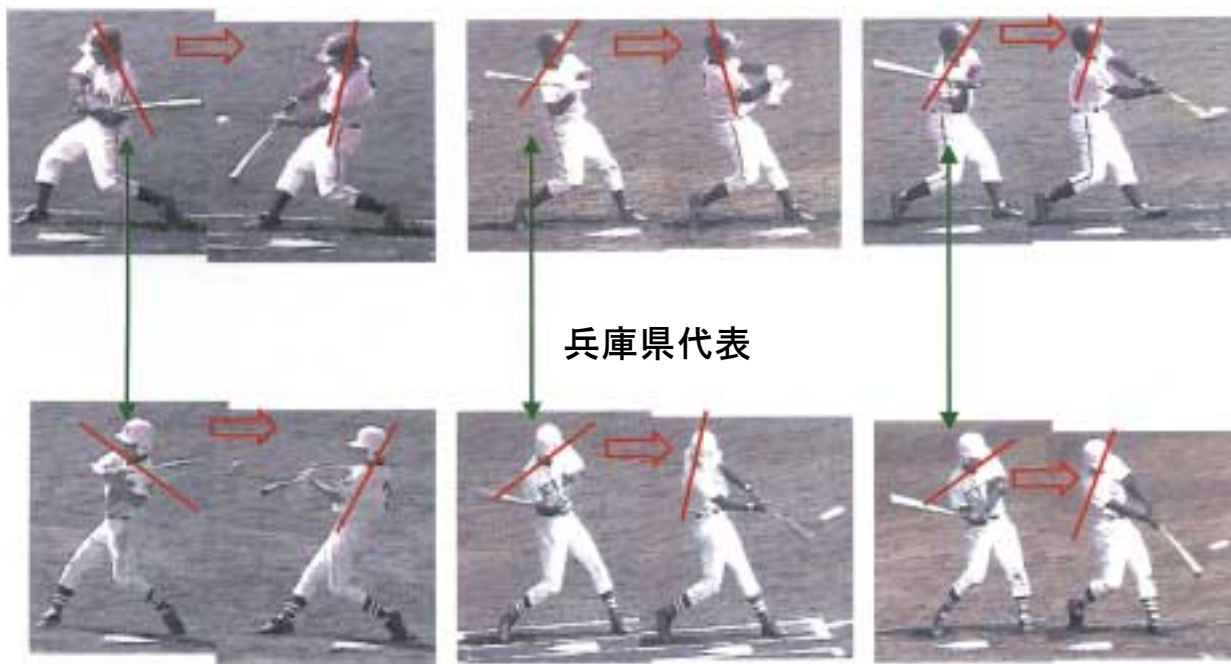


図5

バッティング動作のまとめ

バッティング動作をまとめると県代表校は、斜め前方向への直線運動（頭のブレ）が多すぎて腰や上体の回転が有効に使われておらず、腕だけのバッティング動作になっていると思われる。一方優勝校は、頭のブレが少なく軸による回転を意識した動作で、インパクト直前まで上体による回転運動がおこなわれていると考えられます。県代表校と優勝校の全打者のバッティングフォームの分解画像を図6および7に示しました。それぞれのチームでバッティング動作の練習に役立ててもらえれば幸いです。